語彙の拡充と定着に関する実践

―― 学習基本語　（梁田小版）の定着を図るために効果的な指導法はいかにあるべきか ――

足利市立梁田小学校教諭　枝　絹子
渡辺善二
半田　昇

Ⅰ はじめに

本研究は，54年度からの継続研究であるため，「研究のねらい・内容・仮説」については，過去2か年のそれを基盤としてとらえている。そのため，以下に示すそれぞれは，過去2か年で達成できなかったもの，あるいは，その発展の上に立ってのものとして示した。

Ⅱ 研究のねらい

語彙を獲得することは，コミュニケーションや思考の手段を獲得することであると考え，語彙の拡充と定着に関する効果的な指導法の確立を試みようとしたものである。しかし，定着の面の研究が深まるまでには至らず，残された課題として本年度に持ち越された。

そこで，本年度は「学習基本語彙」の定着を図るための効果的な指導法を授業実践を通して導き出そうとした。

Ⅲ 研究の内容

過去2か年に達成できなかった「定着」に関する問題を核として，次の3点を研究の内容とした。

1. 学習基本語彙の定着を図るための指導法の案出を試みる。
2. 学習基本語彙を再整理し，指導に直結する「語彙分類表」を作成する。
3. 今後の指導のための基礎資料とするため「教育基本語彙」（阪本一郎）と「学習基本語彙」（梁田小版）の差異を明確にする。

Ⅳ 研究の仮設

次の2点を仮説として設定し，その立証のための実践を試みることとした。

1. 段階別学習基本語彙表（梁田小版）を手がかりに，定着を意図した分類語彙表を作成し，それに基づいた意図的・計画的な指導をすれば，学習基本語彙の定着を図ることができる。
2. 定着を意図した語彙の意味を正確に理解させ，その後に，それ等の語彙を用いた表現活動（書く活動を中心に）をさせれば，意図する語彙を定着させることができる。

以上のことをふまえ，以下，学習基本語彙（梁田小版）の定着化を試みた授業実践例を示す。なお，以下に示した授業実践例は，1年「助数詞」　3年「類義語」　5年「熟語の成り立ち」に関するものである。

Ⅴ 1年生の授業実践例

1. 学習指導案

(1) 題材名　　もののかぞえかた

(2) 目　標

① 物を数えるなかで，物によって数え方の単位（助数詞）が違うことに気づかせる。

② 学習基本語　表（梁田小版）のうち，配当段階Aに含まれる助数詞の意味を理解させ，実際に名数で数えさせることにより，助数詞への興味関心を高める。また，短文作りを通して語　としての定着を図る。

③ 日常生活における助数詞の使い分けに対する関心を持たせる。

(3) 指導計画（総時数２２時間）

① 「軒，個，冊，台，枚，羽」を使って，買い物ゲームをする。……1（本時）

② 順位，回数などを名数で正しく言ったり，書いたりする。……1

(4) 本時の指導

① 題　材　　かいものゲーム

② 目　標

㋐ 「軒，個，冊，台，枚，羽」の六種類の助数詞を使っての買い物ゲームを通して，使い分けを正しく理解させるとともに，助数詞への興味・関心を高める。

㋑ 自分の買った物を，正しく名数で短文の中に書き表すことにより，定着を図る。

③ 授業の観点

物を正しく数える時，その数える物によって，数え方（助数詞）が違ってくる。また，表記の際は，漢数字といろいろな助数詞を合わせて使用するため，低学年児童にとっては，理解が困難になってくると思われる。そのため特に，助数詞の使い分けができず，何でも，一つ，二つ……，一こ，二こ……的な数え方をしてしまう児童がみうけられる。

そこで，予備学習で実際に助数詞を扱わせることにより，助数詞への意識づけを図る。特に，本時は，学習基本語彙表（梁田小版）にある６語を扱い，買い物ゲームを通して６語の使い分けをさせる。この６語は，熟知度としては高いが，実際の生活においての使い分け（使用語彙としての定着）は，難しいと思われる。そこで，さらに，本時における各自の買い物を正しい名数で短文作りさせることにより，語彙としての定着を図る。

④ 学習基本語彙表との関連（すべてA段階( )内の数字は熟知度を示す。）

軒（1,980）　個（1,844）　冊（1,966）　台（2,000）　枚（1,996）　羽（1,984）

⑤ 予備学習課題とその意図

㋐ 予備学習課題

４＋５＝９にあうもんだいぶんをつくりましょう。

㋑ 出題の意図

児童が，普段使っている助数詞（意識づけるとある程度使い方けられるが）は，動物は「～ひき」，物は「～個」等，十把一からげ的な数え方が多いようである。本時は，無意識に用いている助数詞に対し，意識を向けさせることに重点をおいた課題である。

□を四□と□を五□であわせて九□。（作業用紙）

⑥ 展　開　　※ 同和教育指導上の留意点

指導内容	学　習　活　動	時形	指導上の留意点	評価（資料）
予備学習 4＋5＝9にあうもんだいぶんをつくりましょう。			□を四□と□を五□であわせて九□。 という作業用紙を与え，□には同じ数え方の物が入り，□には，すべて同じ数え方（助数詞）が入ることを確認しておく。	o（作業用紙） o物とそれに対応する助数詞が正しく使えているか。
o予備学習発表	1.予備学習を発表する。	5（一斉）	o　児童が書いてきた作業用紙を，種類別に分けて掲示する。 o　なぜ，分けられたのかを考えさせ，ものと助数詞との対応に気づかせる。	
o学習の目	2.学習の目あてを知る。	2（一斉）	o　学習の目あてを，センテンスカードで示す。 学習の目あて ●ものをただしくかぞえてみよう。	o本時の学習の目あては，理解できたか。観察する。
o物の名前あつめ	3.6種類の助数詞で数えるものを考える。	8（一斉）	o　本時で扱う6語（軒・個・冊・台・枚・羽）を知らせる。 o　上の6種類の助数詞を冊いて数えるものには，それぞれどんなものがあるか，考えさせる。 o　児童の発表を板書する。 o　六種類の助数詞を用いて数えるものを，それぞれ一つずつ決めて，表で掲示し，次の買いものゲームでの売る品とする。	
o物と助数詞の対応	4.本時で扱う6種類の助数詞を使って，買い物ゲームをする。	15（一斉ー個）	o　買い物ゲームを導入し，本時の学習への意欲を高めさせる。 o　ゲームの方法は，次の通りとする。 1.　クラス内を二分する。 2.　6つの助数詞で数えるものを売る店を用意し，数え方を確認する。	o（売り物カード）

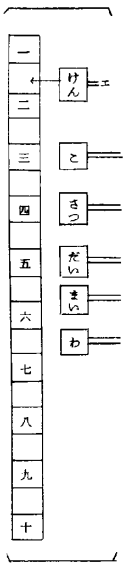
			3. ゲームの手順 買う人「何を，いくつください。」 売る人「何を，いくつですね。」 と必ず確認する。 ※ 売る人と買う人で「何をいくつ」を確認しながら，楽しく買い物ゲームをさせる。また，一つの店に集中しないように，約束させる。 ※ 全員の子が，売り手と買い手を経験できるよう，15人ずつ二交替で行う。	○ゲームのきまりを理解しているか，確認する。 ○買い物ゲームの中で助数詞が正しく使われているか巡視でみる。
○買い物の整理	5.買ったものを作業用紙に並べる。 6. 6種類の助数詞を正しく使って短文を作る。 7. 6種類の助数詞が正しく使われているか，確認する。	12（個別一斉）	○ 買ったものを作業用紙に種類別にまとめて並べさせる（早く終った児童はのりづけ） ○ 全員で，数え方（助数詞）の確認をする。 ○ の作業用紙の□の中に，自分の買い物を正しい名数で書かせる。 ○ 黒板に児童の作業用紙を拡大した表を貼り，一斉で確認する。	○（作業用紙） ○物と助数詞との対応を正しく理解し，短文の中で正しく使われているか答え合わせをして，確認する。 ○（拡大表）
予備学習 あなたは，なわとびで まえとびが，どれくらいできますか。		3（一斉）	○ 短文で書かせておく。	

2. 授 業 記 録

学習活動	発問 反応（T教師，P児童）板書等		
1. 予備学習を発表する。 （予備学習課題参照）	T 予備学習を，みんなで読みましょう。 P 4＋5＝9にあうもんだいぶんをつくりましょう。（一斉音読） T みんな同じ問題をやってきたのに，五つに分けて貼ったのはなぜでしょう。 （予備学習で与えた作業用紙を，五つに分けて用紙に貼り提示する。）		T ここは，何ですか。 P くだものです。 T くだものは，何で数えますか。 P 「つ」です。 P 「個」もあります。 T では，ここは，何ですか。 P どうぶつ，生きものです。 T 生きものは，何で数えますか。 P 「ひき」です。

	T　では，ここは。 P　花やえんぴつです。 T　何で数えましたか。 P　「本」です。 T　ここは。 P　どうぶつで，「頭」です。 T　むずかしいのを知っていますね。では，ここは。 P　食べ物で，「個」です。
2. 学習の目あてを知る。	T　このように，物によって数え方が違いますね。きょうは，もっとくわしく勉強しましょう。きょうの勉強することを，読んでみましょう。 がくしゅうの目あて ものを，ただしくかぞえてみよう。 （「学習の目あて」をカードで示し，児童に一斉音読させる。）
3. 六種類の助数詞で数えるものを考える。	T　きょうは，六つの数え方をやります。「1軒，2軒……」と数えるものには，何がありますか。（カード：けん） P　おうちです。 T　ほかに，ありませんか。 P　マンションです。 T　マンションも，おうちみたいですね。 では，「1個，2個」と数えるものは。（カード：こ） P　飴です。 T　ほかには。 P　こおりです。 T　冷蔵庫のかな。池にはる氷かな。……冷蔵庫の小さい氷だね。では，「冊」と数えるものは。

	P　本です。（カード：さつ） T　ほかには。 P　お金です。 P　違います。お金は，1まい2まいです。 T　そうですね。お金は，札だけれど，1枚，2枚と数えますね。では，「台」と数えるものは，何ですか。（カード：だい） P　くるまです。 P　トラックです。 T　トラックも　車ですね。では「枚」と数えるものは。（カード：まい） P　おり紙です。 P　画用紙です。 P　葉っぱです。 P　色紙です。 T　「羽」で数えるものは。 P　とりです。（カード：わ） T　いろいろでましたが，それぞれの数え方で，物を1つに決めます。 （前出のカードの下に，決めた物の絵をそれぞれに貼る。） 「軒」は「家」です。（カード：） 「個」は「りんご」です。（カード：） 「冊」は「ノート」です。（カード：） 「台」は「テレビ」です。（カード：） 大きなきかいも「台」で数えます。 P　クーラーも大きいきかいだよ。 P　扇風機も。 T　「枚」は「さら」です。（カード：） 「羽」は「うさぎ」です。知っていましたか。（カード：） P　知らなかった。 P　初めて，聞いた。



4. 買い物ゲームをする。

T　きょうは「家」「りんご」「ノート」「テレビ」「さら」「うさぎ」を使って，数えてみましょう。

まず「家」を数えてみましょう。

P　1けん，2けん……10けん。

T　次は，「りんご」です。

P　1こ，2こ……10こ。

T　次から，半分にへらします。

「ノート」は。

P　1さつ，2さつ……5さつ。

T　「テレビ」は。

P　1だい，2だい……5だい。

T　「さら」は。

P　1まい，2まい……5まい。

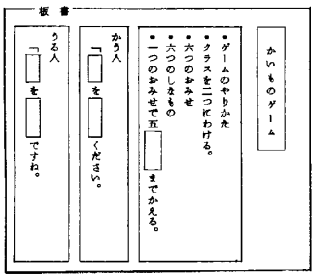
T　「うさぎ」は。

P　1わ，2わ

T　「3ば」だけ，違いますよ。

P　1わ，2わ，3ば，4わ，5わ。

T　きょうは，これを使って，ゲームをやります。（黒板一音読みさせながら，ゲーム説明。）



T　では，ためしにやってみましょう。うさぎが，これだけほしい人。

P　うさぎを，2わください。

T　そうです。では，これだけほしいというのが，できる人いますか。

では，かう人，Y君。うる人M君。

P　うさぎを　3ばください。

P　うさぎを　3ばですね。

T　では，1・2・3班が，先に売ります。売る品物のお面をかぶりなさい。買う人は，箱を持って用意しましょう。時計の長い針が，3までです。（5分間）

では，始め。

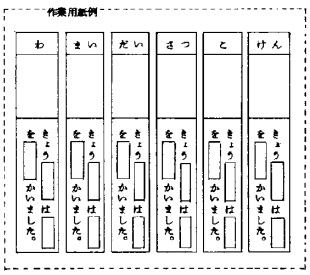
交換です。（5分間）

5. 買った品物を作業用紙に並べる。

T　買った品物を，黒板に貼った先生の紙と同じように，四角の中に並べましょう。

5以上は，買いすぎですから5まで並べましょう。

（※板書・ゲームのやり方参照）



6. 短文を作る。

T　でやってみます。できる人。

P　きょう，ぼくは，うさぎを4わかいました。

T　時間がないので，「軒」（家）と「羽」（うさぎ）だけ，やってください。（2分間）

T　「家」が，できる人。I君。

P　ぼくは，いえを　5けんかいました。

T　ほかに。Oさん

P　わたしは，いえを　3けんか

	いました。 T　3けんでなく，3げんといいます。 P　3げん　（一斉） T　うさぎが，できる人。Yさん。 P　わたしは，うさぎを　2わかいました。 T　Hさん。 P　わたしは，うさぎを　5わかいました。 T　K君。		P　ぼくは，うさぎを　3ばかいました。 T　物を数える時は，今日のように，正しく数えましょう。 　きょうは，物を正しく数えましたね。この次，やることは， 予備学習 あなたは，なわとびで，まえとびがどれくらいとべますか。 というのを，やります。

3. 指導の効果

① 指導法からの効果

日本語の中には，多くの助数詞がある。これは，日本語の持つ一つの特色ではなかろうか。しかし，多くある助数詞も，児童の生活語彙の中には，その一部を見るに過ぎない。特に，低学年児童の生活語彙の中では，「一つ，二つ」あるいは「一こ，二こ」のような用法がほとんどある。

以上のような児童の実態をふまえ，本時は，基本的な助数詞と思われる六語の助数詞を取り扱うこととした。さらに，一助数詞に対し一物質名詞を取り上げて指導することとした。助数詞を六語に限定したことと，各助数詞に当てはまる物質名詞を一語に限定したことは，複雑な助数詞の使い分けに対する混乱をさけ，さらに，身近な物質名詞を取り上げたため，児童の助数詞に対する興味関心も高まった。

さらに，知識・理解として把握した助数詞を用いて，教室内ではあるが，買い物ゲームという実際活動の中で使用させることによって定着化を図った。このことは，単なる知識・理解にとどまらず，生きて働く語彙学習になったと考える。特に，低学年児童に対しては，擬体験学習であっても，効果は十分に認められる。合わせて，ゲームの要素を導入したことから，助数詞への興味・関心も図られたことは当然である。

② 敷延された効果

指導後，児童の日常会話に注意を向けてみると，助数詞を間違って使っている友達に対し，その間違いを指摘する児童の姿が見えてきた。やがて，相互に注意しあい，助数詞を正しく用いようとする態度が学級全体に見られるようになった。

また，作文学習や，日々の生活日記の中でも「一つ，二つ」「一こ，二こ」的な数え方が減少し，正しく助数詞を用いはじめてきた。　（枝　絹　子）

Ⅵ 3年生の授業実践例

1. 学 習 指 導 案

(1) 題材名　　言葉について考えよう。

(2) 目　標

① 「着る」と「はく」を中心に，類義語の微妙な違いについて気づかせる。

② 「着る・はく・かぶる」の対義語は「ぬぐ」の一語ですべてすませることを気づかせる。

(3) 指導計画　（総時数　2時間）

① 身につける物（名詞）を表す言葉……1

② 「身につける」「体から外す」（動詞）ということを表す言葉……1（本時）

(4) 本時の指導

① 題　材　　「着る」と「ぬぐ」

② 目　標

㋐ 「身につける」ときの言葉はちがっても，「体につける」ときの言葉は，共通するという言葉のおもしろさを理解させる。

㋑ 体から外すとき使用する言葉の「解く」を理解させる。

㋒ ゲーム・動作化を通して，言葉への興味関心を高めさせる。

③ 授業の観点

衣類をつけたり身から外したりする動作は，児童にとって日常的なことであり，また，それらに使っている語彙も日常的な言葉であるので，あまり意識化されたことがない。しかし，これらの語彙は微妙なニュアンスの違いがあり，また，共通点もある。たとえば，同じ身につけるにしても洋服は「着る」であり，ズボンは「はく」である。そして，体から外す場合は両方とも「ぬぐ」という言葉で表わされる。このような言葉のおもしろさを気づかせながら，動詞の類義語・対義語を理解させていきたい。

また，体から外す場合に用いられる言葉のうちで「解く」は，学習基本語彙表（梁田小版）の配当段階Bで熟知度1.896であるので理解不十分と思い，「ほどく」という意味をもとに，「わからないものをはっきりさせる」という意味も理解させ使用語彙としたい。

これらのことを理解させる方法として，ゲームや動作化を授業の中に取り入れることにより，言葉への興味関心を高めて行く。

④ 学習基本語彙表との関連（B段階　数字は熟知度を示す。）

解く（1.896）

⑤ 予備学習課題とその意図

㋐ 予備学習課題

「解く」という言葉の意味を辞書で調べて，○印の所に書きなさい。

○

○

㋑ 出題の意図

「解く」という言葉は動詞であり，広がりと深まりがあるが，辞書を引くことにより，原義的な意味の範囲は理解できると思い出題した。

⑥ 展　開　　※ 同和教育指導上の留意点

指導内容	学習活動	時形	指導上の留意点	評価（資料）
予備学習 「解く」という言葉の意味を辞書で調べて，o印の所に書きなさい。 o o			o　ほとんどの児童が辞書を引くことができると思うので，辞書的意味をとらえさせておく。	o事前に提出させ，「解く」という言葉を辞書で調べることができたかをみる。
o学習の目あて1とジャンケンゲームの方法を知らせる。	1.　学習のめあて1とジャンケンゲームの方法を知る。	5（一斉）	o　学習のあて1はセンテンスカードで示す。 学習の目あて ぼうしやようふくなどを「身につけるとき」また，「はずすとき」には，どんな言葉を使うだろうか，集めてみましょう。 o　ジャンケンゲームの方法は，口頭で知らせる。作業用紙は下記のものとする。 ●二人グループでする。 ●ジャンケンをして勝った者が言葉を書いて先に進む。	o学習の目あて1が理解できたか，観察によってみる。 o ジャンケンゲームの方法が理解できたか，挙手によってみる。
o身につけるとき，体からはずすときの言葉を集める。	2.　ジャンケンゲームをする。	10（班）	●作業用紙Ⅰ（ジャンケンゲーム） ゴール 14 ぼうしたい / 13 ゲートル / 12 はちまき / 11 ネクタイ / 10 おび 9 スリッパ / 8 サンダル / 7 くつ / 6 くつ下 / 5 スカート / 4 ズボン / 3 シャツ / 2 ようふく / 1 ぼうし 身につけるとき：まく / まく / むすぶ / する / しめる / はく / はく / はく / はく / はく / はく / きる / かぶる 体からはずすとき：解く / 解く / ほどく / とる / とる / ぬぐ / ぬぐ / ぬぐ / ぬぐ / ぬぐ / ぬぐ / ぬぐ / ぬぐ / とる ●どちらかがゴールにはいったらゲーム終終了とし，敗者は残りの言葉を書く。 o　友達の書いた言葉を知ることから言葉の広がりに気づかせる。	o作業用紙1 o作業用紙と同じものを模造紙に書いて掲示する。 o多くの言葉が集められたか，机間巡視によってみる。
o着る・はく・かぶる・	3.　着る・はく・かぶる・ぬぐの使い	10（一斉）	o　作業用紙1のぼうしからマフラー（1～9）までの名詞につく動詞は，	o着る・はく・かぶる・ぬぐ

ぬぐと体につける物との関係	かたを知る。 o　発表する。		着る・はく・かぶる・ぬぐの範囲の言葉であらわせる。また，それらの言葉と体につける物との関係は次のようであることを気づかせる。 ●着る……ぬぐ（ようふく）…上半身 ●はく……ぬぐ（くつ下）……下半身 ●かぶる…ぬぐ（ぼうし）……頭 ●体からはずす時は全部「ぬぐ」。 o　実際にぼうしやようふく等を児童に身につけさせることによって気づかせていきたい。	と体につける物との関係が理解できたか，発表によってみる。
o学習の目あて2	4.　学習の目あて2を知る。	10（一斉）	o　学習の目あて2は，センテンスカードで示す。 学習の目あて2 「解く」について考える。 ※　学習の遅れがちな児童に予備学習を発表させる。	o学習の目あて2が理解できたか観察によってみる。
o しめる・結ぶ・巻く解くと体につける物との関係	5.　しめる・結ぶ・巻く・解くの使い方を知る。 o　発表する。	↓	o　作業用紙1のおびからほうたい（10～14）までの名詞につく動詞は，しめる・結ぶ・巻く・解くの範囲の言葉で表せる。また，それらの言葉と体につける物との関係は次のようであることを気づかせる。 ●しめる，結ぶ…解く（おび；ネクタイ・はち巻き） ●巻く…解く（ゲートル・ほうたい） ●体からはずすときは，全部「解く」である。 o　実際に帯やネクタイでやるが，児童は，ほとんど体からはずす場合は「ほどく」ということが予想されるので，ここでの意味は「解く」と同じであることを指導する。	
o言葉の意味の広がり	6.　「解く」のほどくという以外の意味をしる。	10（一斉）	o　発展として「解く」は，ほどくという意味の他に次のような意味のあることを理解させる。	o「解く」が理解できたか，発表によって

		●わからないことをはっきりさせる。	みる。
○短文作り　7.「解く」を使って短文作りをする。 ○　発表する。	↓	○　「解く」を使って短文作りをする。 ●主語，修飾語，述語はおさえる。 ●「ほどく」と「わからないことをはっきりさせる」というそれぞれの意味が含まれた短文作りをする。	○「解く」を使ってそれぞれの意味が含まれ適切な短文ができたか，机間巡視でみる。 ○作業用紙Ⅱ

2. 授　業　記　録

学習活動	発問　反応（T教師，P児童）板書等		
1.　学習の目あて1.とジャンケンゲームの方法を知る。	T　学習の目あて1はこれです。みんなで音読しましょう。 P　ぼうしやようふく……。 T　身につけるとき，はずすときどんな言葉を使うかなこれから一緒に考えてみましょう。 T　みんなの机の上にある，作業用紙1を使ってジャンケンゲームをやります。ルールを説明しますからよく聞きなさい。 T　2人グループでします。 T　ジャンケンをして勝った者が言葉を書いて先へ進みなさい。 T　どちらかがゴールにはいったらゲームを終わりとし，負けた残りの言葉を書きなさい。	をする。	（作業用紙1と同じものを模造紙に書いて掲示する。） T　ここに先生がぼうしやようふくを用意してきました。B子ちゃんに実際にモデルになってもらいます。 （ぼうし・ようふく・シャツ等を用意し実際の動作を通してやってみる。） T　ぼうしを身につける時，何と言うかね。 P　かぶるです。 T　ようふくはどうですか。 P　着るです。 T　ズボン・スカートはどうですか。 P　はくです。 T　くつ下・くつ・サンダル・スリッパなどはどうですか。 P　はくです。 T　身につけるときの言い方は，どんな言葉がありましたか。 P　かぶる・着る・はくなどです。 T　今度は，体からはずす時の言い方についてやってみましょう。
2.　身につけるとき，体からはずすときの言葉を集める。（ジャンケンゲーム）	P　ジャンケンポイ （児童一斉にジャンケンを始める） T　身につけるとき，体からはずすときは，それぞれどんな言葉がぴったりするか，やってみましょう。自分の結果とよく比べましょう。	3.　着る・はく・かぶる・ぬぐい使い方を知る。	

T　ぼうしはなんと言いますか。

P　とるとぬぐの二つの言い方があります。

T　その通りです。どちらも使いますね。

T　ようふく・シャツ・ズボン・スカートなどはどうですか。

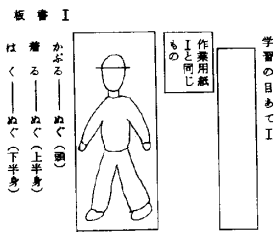
P　全部ぬぐです。

T　くつ下・くつ・サンダル・スリッパはどうですか。

P　全部ぬぐです。

T　では，身につける時と，体からはずすときの言い方をまとめてみましょう。

（黒板に模造紙に書いた人体図を掲示する。　　板書１



T　この人間の絵をみなさい。

T　ぼうしは，どこへ身につけるのかな。

P　頭です。

T　ようふく・シャツどうですか。

P　上半身です。

T　スカート・ズボン・くつ下・くつなどはどうですか。

P　下半身です。

T　頭・上半身・下半身にそれぞれ身につける物によって言い方はどうでしょう。

P　頭につけるぼうしなどはかぶるです。

P　上半身につける，ようふく・シャツなどは着るといいます。

P　下半身につける，ズボン・スカートなどは，はくです。

T　そうですね。

T　次に，体からはずすときは，頭・上半身・下半身とそれぞれちがう言い方かな，どうですか。

P　体からはずすときは，頭・上半身・下半身に関係なく「ぬぐ」という言葉を使うことができます。

T　そうですね。では，まとめてみます。

かぶる……ぬぐ（頭）
着　る……ぬぐ（上半身）
は　く……ぬぐ（下半身）

4.　学習の目あて２を知る。

T　次に学習の目あて２はこれです。みんなで音読しましょう。

学習の目あて 「解く」について考える。

5.　予備学習を発表する。

T　予備学習をみんなで音読しましょう。

（予備学習課題参照）

6.　しめる・結ぶ・巻く・解くの使い方を知る。

T　作業用紙Ⅰの10～14（おび・ネクタイ・はちまき・ゲートル・ほうたい）までの物を「身につけるとき，「体からはずすとき」は，どんな言葉を使うか学習してみましょう。

T　帯を身につけるときは，なんといいますか。

P　しめる，まくと言います。

T　ネクタイはどうでしょう。

P　結ぶ，しめると言います。

T　はちまきはどうですか。

が 7. 「解く」のほどくという以外の意味をする。	P　むすぶとしめるです。 T　そうすると身につけるときの言い方は，しめる・する・むすぶ・まくなど，いろいろな言い方があるわけですね。 T　今度は，体からはずすときの言い方はどうでしょう。 P　おびもネクタイも解くと言います。 T　ほうたいはどうでしょう。 P　解くと言います。 T　そうするとこれらの物を体からはずすときは，ぬぐと同じように解くという言葉で表すことができるわけです。 T　「解く」のほどくという意味は，わかったようですね。 T　では，「解く」のもうひとつの意味「わからないことをはっきりさせる。」という意味の方を学習しましょう。 T　みんなに聞きますが，例えば，むずかしい問題を……，さて後の言葉はどんなのがいいかな。 P　解くです。 T　今度は，クイズを……，さて後の言葉は，何かな。みんなで	8. 「解く」を使って短文作りをする。（主語・修飾語・述語をおさえる。）	言ってみよう。 P　クイズを解くです。 T　その通りです。だいぶわかってきたようですね。では，「解く」を使っての短文作りで終わりにします。 （全員短文作りをする。） 作業用紙 II 次の言葉を使って短文を二つ作りなさい。 「解く」 1. 「ほどく」という意味 ○ぼくは，木にしばってあるなわを解く。 2. 「わからないことをはっきりさせる。」という意味。 ○わたしは，むずかしい算数の問題を解く。

3. 指導の効果

① 言葉のおもしろさ

一つの言葉を類義語や対義語と関連付けて考えることにより，言葉のおもしろさをつかませることができた。

② 動詞と名詞群との対応

ある動詞について，ただ機械的に類語や対語を考えさせるだけでなく，それと類縁関係を持つ名詞群と対応させることによって，動詞の理解を深めることができる。（渡辺　善二）

Ⅶ 5年生の授業実践例

1. 学習指導案

(1) 題材名　　熟語の成り立ち

(2) 目　標

① 熟語は，生活から生じる必要感や生活における人々の願いや期待などによって造られるものであることを理解させる。

② 熟語の構成の仕方にきまりがあることを理解し，言葉集めを通して漢字の造語性に気付かせるようにする。

③ 学習基本語彙表（梁田小版）のうち配当段階Cに含まれ，構成の仕方にきまりのある熟語の意味と用法を理解させ，その定着を図る。

(3) 指導計画　（総時数　3時間）

① 語彙表（5，6年用）のうち，上が下を修飾する熟語をえらび，文脈を通してその意味の理解を深める。……1（本時）

② 上が下を修飾する熟語以外で，構成にきまりのある熟語を集め，その結びつきについて調べる。……2

(4) 本時の指導

① 題　材　　間に「の」を入れて

② 目　標

㋐ 人名には周囲の人々の願いや期待がこめられていることを理解させ，漢字の表意性への興味・関心を持たせる。

㋑ 上が下を修飾する熟語のうち，漢字と漢字の間に「の」を入れると意味がわかる熟語があることに気付かせ，文脈の中でその意味の理解を深める。

③ 授業の観点

両親はもちろんのこと，人々の願いや期待がこめられて名付けられたものが人名であり，一方，「夕食」や「国旗」のように人々の生活から生じる必要感によって造られたものが熟語である。そこで，人名から導入することにより熟語の表意性への興味・関心を高めさせる。また，熟語の構成上最も単純な形である上が下を修飾する熟語のうち，漢字と漢字の間に「の」を入れると意味がわかる熟語を取り上げる。さらに，文脈の中での熟語の使われ方を検討させ，意味及びその用法の理解を深めさせたい。なお，このことは使用語彙にまで高めさせる一助になると考えたからである。

④ 学習基本語彙との関連（すべてC段階）

空　港　1,808	国　境　1,520	終　点　1,900
神　話　1,456	昼　食　1,748	

⑤ 予備学習課題とその意図

㋐ 予備学習課題　　㋑ 出題の意図

自分の名前は，どんな願いや期待をこめて付けられたか家の人に聞いてみましょう。

漢字によってつくられる熟語は，言葉と人間生活との深いかかわりの中から生まれたものである。人名には親やまわりの人々の願いや期待がこめられていることに気付かせ，熟語への興味・関心を高めさせたい。

⑥ 展 開

※ 同和教育指導上の留意点

指導内容	学 習 活 動	時形	指 導 上 の 留 意 点	評価（資料）
予備学習 自分の名前は，どんな願いや期待をこめて付けられたか家の人に聞いてみましょう。			o 人名は，両親がなんらかの願いや期待をこめて付けてくれた場合が多いと思われるので，一度，親から話を聞いたり，自分でも辞書をひいて確認させる。	o 事前に提出させ各自の調査状況を把握しておく。
名前の由来	1. 予備学習の結果を発表する。	5（一斉）	o 学習の意欲づけの段階であるので，2，3名の児童を意図的に指名するが，内容については深入りしない。 o 発表する児童の名前は，カードを使って黒板に貼り出し，それを使って説明させる。 o 友だちの発表を聞くことにより，人名には両親やまわりの人々の願いや期待がこめられていることに気付かせる。	（名前カード） o 人名にはそれぞれ願いや期待がこめられていることに気付いたか観察によりみる。
熟語作り	2. 6枚の漢字カードから漢字2字の熟語作りをし，その意味を理解する。	8（個人→一斉）	6枚の漢字カード 休 食 日 旗 朝 国 o 上記6枚の漢字カードを黒板に貼り出す。 o 構成された熟語を各自のカードに写させる。（ただし，6枚のカードは，1枚も余らないことを教えておく。）	（漢字カード） o 3種類の熟語が書けたかどうか机間巡視によりみる。

			o　3種類の熟語を黒板に貼り出し，最初は個人に読ませ，次の全員に音読させたのち，これらの熟語には人々の願いや期待はこめられていないことに気付かせる。	o　これらの熟語には人名と異い，願いや期待がこめられていないことに気付いたか発表によりみる。
熟語の意味	3.　3種類の熟語の意味をカードに書き，発表する。		o　それぞれの熟語に対して，自分で考えた意味をカードに書かせ，念のため班の中で確認させてから発表させる。 o　漢字と漢字の間に「の」を入れて上から下に読みくだす意味味がわかることに気付かせる。 ※　ふだん，発表の機会の少ない児童を意図的に指名するように心がける。	o　熟語は漢字と漢字の間に「の」を入れて読みくだすと意味がわかることがわかったか。 ＜作業用紙・発表＞
学習の目あて	4.　学習の目あてを知る。	2（一斉）	学習の目あて 「□の□」という形で意味が表せるじゅく語をさがそう。	(センテンスカード)
熟語さがし	5.　学習の目あてにあった熟語をさがす。	15	o　語彙表（5，6年用）の中から目あてにあった熟語をさがさせる。 o　児童に語彙表の中から目あてにあった熟語をすべてさがさせるのは時間的制約により無理なため，学習範囲を1ページから12ページまでと限定し，「何ページにはいくつある。」という形でヒントを与えたい。 o　班対抗とし，短時間でさがすための意欲づけとする。	（語彙表） （ヒントを書いたカード）

6. さがせた熟語を発表する。		o 正答はあらかじめ黒板に伏せて示しておき，児童の発表したものと照合させるようにする。さらにこの中から熟知度の高い6種類の熟語を選び検討の材料とする。 （空港，国境，終点，神話，昼食）	（熟語カード）
意味の検討　7. 文脈を通して意味の検討をする。	13（個－グ－一斉）	o 熟語としての意味は理解できても，文中での用法はかなり不正確な児童がいることも予想される。そこで，あらかじめ作っておいた例文を示し文中での正しい使い方を意識づける。	（ＯＨＰ） o 自力で例文のおかしな点に気付いたか。 ＜机間巡視＞
予備学習 下から上に向かって読むと意味がわかる熟語を語彙表からさがしなさい。	2（一斉）	o 語彙表（5，6年用）の中からさがさせておく。	

2. 授　業　記　録

学習活動	発問 反応（T教師，P児童）板書等		
1. 予備学習の結果を発表する。 （予備学習課題参照）	T　予備学習が出ていましたね。確認してみましょう。 （一斉黙読） T　それでは，予備学習の結果を発表してもらいましょう。 Kさん。 P　私は美しい心で素直になるように美順と名付けられました。 T　ほかの人にも発表してもらいましょう。Oさん。 P　心の広い，やさしい，素直な子になりますようにと願って，神主さんが付けてくれました。 T　もうひとり，発表してもらいましょう。Aさん。		P　私の名前は，おじいちゃんの英樹という英をもらって付けられました。私が英雄になるように付けてもらった名前です。 T　3人の発表を聞いてどんな感想をもちましたか。 P　私たちが少しでもよい人になるようによく考えて名前をつけてくれています。 T　名前を作っている漢字一字にはそれぞれ意味があり，そしてそれらが合わさってできた名前としての熟語にも意味があるようです。 T　3人とも，両親やまわりの人たちの願いや期待をこめて，名

2. 6枚の漢字カードから漢字2字の熟語作りをし，その意味を理解させる。	T　今ここに，6枚の漢字カードがあります。どんな漢字が書いてあるか，よく見ていなさい。 板　書　I 願 日 国　英 啓 美 休 食 朝　子 美 順 願い・期待 T　この6枚のカードの中から，2字の熟語を作りましょう。ただし，1枚のカードもあまりません。それでは始めなさい。 T　熟語ができたら，その意味も書きなさい。 P　終わりました。 T　熟語を一つずつ発表してもらいましょう。Tさん。 P　「国」と「旗」を組み合わせて「国旗」という熟語を作りました。 T　あと二つできそうだね。Iさん。 P　「朝」と「食」を組み合わせて「朝食」という熟語を作りました。 T　最後の熟語は？　I君 P　「休」と「日」を組み合わせて「休日」という熟語を作りました。 T　3つの熟語を一斉に音読してみましょう。 P　（一斉音読）	3. 熟語の意味をカードに書き発表する。 4. 学習の目あてを知る。 5. 学習の目あてにあった熟語をさがす。	T　さて，この3つの熟語には，それぞれ人々の願いや期待はこめられているかな。 P　（一斉に）こめられていない。 T　熟語の意味を読んでみましょう。 P　「国の旗」，「朝の食事」「休みの日」 T　今日の学習の目あてはこれ。 「□の□」という形で，意味が表せるじゅく語をさがそう。 T　今学習した熟語と同じように漢字と漢字の間に「の」を入れると意味のわかる熟語を語彙表からさがしてみよう。 T　班を作って，語彙表を用意しなさい。最初は先生といっしょにさがしてみよう。語彙表の12ページを開きなさい。そのページに一つあるね。 T　さがせたかな。I君 P　「昼食」だと思います。 T　そうだね。「朝食」に対して「昼食」があった。 T　さあ，これから11の熟語をページごとに一斉にさがすことにしよう。そして，一つの熟語が見つかったら10点を与えることとして班対抗の熟語さがしゲームとしよう。

6. さがせた熟語を発表する。	板書Ⅱ P6 と　P6 と　P6 と　P4 く　P4 き　P4 き　P2 か　昼食 得点表　P10 し　P10 し　P8 し　P8 し T　第1回戦は2ページ。班の中で熟語がさがせたら班長が持っているカードにそれを書きなさい。 T（数分後）はい。ストップ T　さがせたかな。Tさん。 P　はい。「外部」だと思います。 T　「外部」をさがし出せた班は。 P　（全部班長がカードを上げる。） T　それじゃ，各班に10点ずつあげよう。最初は仲よく引き分けだ。 T　第2回戦は，4ページ。このページには三つあるよ。さあ，がんばってさがしてみよう。 T（数分後）はい。ストップ T　さがし出せた人は。Sさん。 P　はい。「急用」だと思います。 T　あと，二つあるよ。Kさん。 P　はい。「空港」だと思います。 T　もう一つ「き」のつく熟語があるよ。Oさん。 P　はい。「金額」だと思います。 （途中，省略） T　さあ，第5回戦は最後だからもっとがんばろう。今度は10ページだ。 T　これは，1分30秒くらいでいくか。はい。スタート。	7. 文脈を通して意味の検討をする。	T　10ページの真ん中より左側に二つありそうだね。 T　はい。ストップ。発表してもらおう。Mさん。 P　はい。「神話」だと思います。 T　もう一つあるね。Yさん。 P　はい。「森林」だと思います。 P（一斉）「えー。」 T　「森林」の意味を読んでみよう。間に「の」を入れて…… P　「森の林」 P　意味がおかしいなあ。 T　はい。Iさん。 P　「人類」だと思います。 T　これで全部の熟語が出そろいました。今まで出てきた熟語の意味を音読してみよう。 P（一斉に音読） T　それでは，作業用紙の問題を考えてみよう。正しい文ならば○，正しくないならば×をつけて正しく直しなさい。 P（一斉に作業開始） T　みんなできたようだね。 T　Iさん。 P　はい。「空港に乗ったことがある。」というのはおかしいと思います。「空港に行ったことがある。」にした方がいいと思います。 T　2番目の文について考えてみよう。 P　（一斉に）正しくない。 P　「神様」というのは，神様の話だから，「神様が」というのをほかの人に直した方がいいと

	思います。 T　ああ，そうか。何に直したらいいかな。 P　「おとうさん」とか「おかあさん」のように神様以外の人に直した方がいいと思います。 T　3番目の文は，どうですか。 P　（一斉に）正しくない。 T　どこが正しくない。 P　「国の国境」のところは「国境」だけでいいと思います。なぜなら「国境」というのは，「国の境」という意味になるからです。 T　4番目の文は，どうですか。 P　（一斉に）正しくない。 P　「お昼の昼食」のところは，「昼食」だけでいいと思います。なぜなら，「昼食」というのは「お昼の食事」という意味になるからです。		T　最後の文は，どうですか。 P　（一斉に）正しいと思います。 T　それでは，正しくない文は，正しい文に直して作業用紙を提出しなさい。 T　次の予備学習を出します。注意して黙読してみましょう。 予　備　学　習 下から上に向かって読むと意味がわかる熟語を語彙表からさがしなさい。 T　予備学習課題を用紙に書き写せたら終わりにしよう。 T　しっかり予備学習をやってきなさい。

3. 指導の効果

本時は，上の漢字が下の漢字を修飾している熟語を使った学習であった。

導入として，児童が個々に持っている名前を取り上げて漢字の表意性への橋渡しにしようとした。しかし，人名には特殊な読み方もあるので，人名から漢字の表意性への指導は難しいこともある。

ところで，指導の効果と思えることは，およそ次のようなことである。

① 児童が友だちの名前の意味に興味・関心を持つようになった。

② 作業用紙の例文「お昼の昼食」　→「昼食」のように熟語の意味を考えて生活日記を書くようになってきた。

今後は，漢字の表意性から造語性へ指導を発展させたい。　（半　田　　昇）